

消費動向調査

「(山形・秋田)県内家計の消費動向調査」(概要)

- 調査の目的** 山形・秋田の県民の暮らし向きについての現状と見通しを時系列的にとらえるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。
- 調査の方法** 専属モニターを対象とした郵送によるアンケート調査
- 調査の対象者** 山形・秋田の県内に在住するサラリーマン(勤労者)世帯(世帯人数2名以上)
- 調査期間** 平成26年6月1日(日)～13日(金)

山形/モニター世帯数: 494世帯
有効回答数: 451世帯(回答率: 91.3%)
秋田/モニター世帯数: 382世帯
有効回答数: 325世帯(回答率: 85.1%)

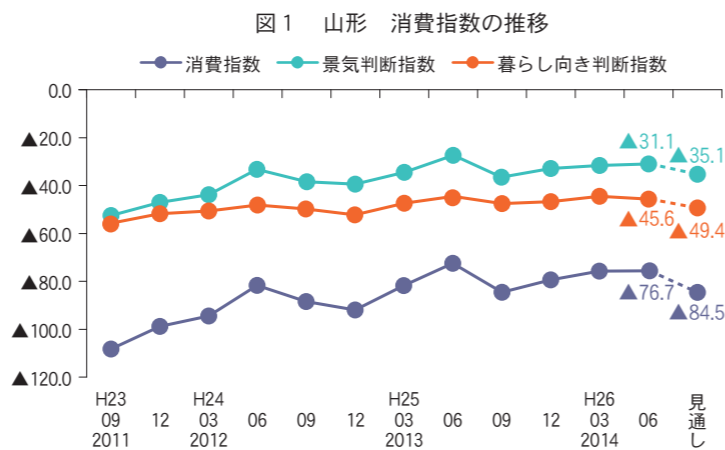
消費指数

第32回 山形県内家計の消費動向調査

～消費マインドは前期比ほぼ横ばいとなったものの、先行きは悪化の見通し～

消費指数は▲76.7(前期比0.8ポイント下落)とほぼ横ばいとなった。内訳は景気判断指数が▲31.1(前期比0.6ポイント上昇)とほぼ横ばいとなり、暮らし向き判断指数が▲45.6(前期比1.4ポイント下落)と若干悪化となった。

今後の見通しは、消費指数が▲84.5(今回調査比7.8ポイント下落)と悪化の見通しとなっている。内訳は景気判断指数が▲35.1(今回調査比4.0ポイント下落)、暮らし向き判断指数が▲49.4(今回調査比3.8ポイント下落)と、いずれも悪化の見通しとなっている。



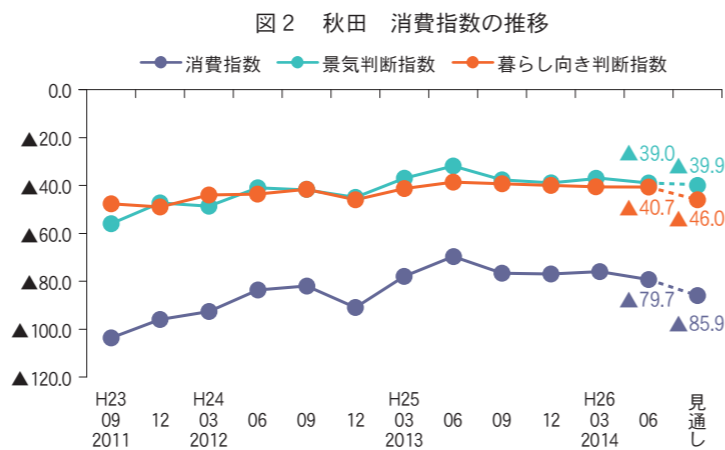
第12回 秋田県内家計の消費動向調査

～消費マインドは足元、先行きとも慎重化～

消費指数は▲79.7(前期比4.3ポイント下落)と3期ぶりに悪化に転じた。内訳は、景気判断指数が▲39.0(前期比2.7ポイント下落)、暮らし向き判断指数が▲40.7(前期比1.6ポイント下落)となっている。

今後の見通しは、▲85.9(今回調査比6.2ポイント下落)と悪化の見通しとなっている。内訳は、景気判断指数が▲39.9(今回調査比0.9ポイント下落)と小幅な悪化が見込まれ、暮らし向き判断指数は▲46.0(今回調査比5.3ポイント下落)と大きく悪化する見通しである。

総括すると、消費税増税も含め物価上昇への警戒感が色濃くみられ、消費マインドには足元、先行きとも慎重姿勢がうかがえる。



【指数の見方】

消費指数は景気判断指数(景気・雇用環境・物価の3項目で構成)と暮らし向き指数(世帯収入・保有資産・お金の使い方・暮らしのゆとりの4項目で構成)の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

景気と暮らし向き

景気判断

山形の景気判断指数は▲31.1(前期比0.6ポイント上昇)とほぼ横ばいとなった。景気判断指数を形成する3つの指数については、「景気(県内)」が▲4.5(前期比2.0ポイント上昇)、「雇用環境」が▲2.5(前期比3.0ポイント上昇)と回復した一方で、「物価(日用品)」が▲24.1(前期比4.4ポイント下落)と大幅に悪化した。前期に引き続き、県内景気や雇用環境への認識が良好化しているが、物価上昇への警戒心がさらに強まっている。

秋田の景気判断指数は▲39.0(前期比2.7ポイント下落)と悪化した。景気判断指数を形成する個別指数では、「雇用環境」は▲7.4(前期比1.6ポイント上昇)と回復基調を維持している一方、「景気(県内)」は▲8.4(前期比1.3ポイント下落)と小幅ながら3期ぶりに悪化に転じ、「物価(日用品)」は▲23.2(前期比3.0ポイント下落)と平成25年3月調査から6期連続で悪化となった。

暮らし向き判断

山形の暮らし向き判断指数は▲45.6(前期比1.4ポイント下落)となり、若干悪化した。暮らし向き判断指数を形成する4つの指数をみると、「世帯収入」「保有資産」で若干回復したが、「お金の使い方」「暮らしのゆとり」は悪化している。中でも「お金の使い方」が▲9.3(前期比1.7ポイント下落)と悪化幅が大きく、消費税増税や物価上昇などを懸念して財布の紐を引き締めている状況がうかがえる。今後の見通しは、すべての指数で悪化の見込み。

秋田の暮らし向き判断指数は▲40.7(前期比1.6ポイント下落)と再び悪化に転じた。暮らし向き判断指数を形成する個別指数では、「世帯収入」が▲8.2(前期比2.0ポイント上昇)と改善したものの、その他の項目はいずれも悪化となった。暮らし向き判断指数は今後、大きく悪化が見込まれ、個別指数の中で「お金の使い方」の悪化幅が大きく、消費税増税など物価上昇に伴う負担感は大きく、当面は消費の抑制姿勢が続く見通し。

家計収支

山形の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が475千円と前年同期比で45千円の増加となり、支出面では支出計が416千円と前年同期比で17千円の減少となった。

その結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は87.7%となり、前年同期に比べて13.0ポイントの大幅減少となった。

秋田の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が404千円となり、前年同期比で14千円の減少となった。支出面では支出合計が392千円となり、前年同期比で19千円の増加となった。

その結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は97.2%で、前年同期に比べて7.7ポイント上昇した。

